

### 第3回湖西市立学校教育施設適正化検討委員会記録 概要

- 1 日時 令和3年11月15日(月) 14時05分～15時30分
- 2 場所 新居図書館
- 3 出席者 島田桂吾、袴田雄司、疋田貴之、板倉福男、鈴木誓子、杉浦よしみ、西川睦弘、黒柳孝江、新美留美、鈴木聖慈

#### 4 概要

「単学級の小規模校の1学級における必要な最低人数」についてと、「望ましい教育環境としての学級数」について議論を行った。第4回では、共通理解した考えを基に、適正配置について、検討することが確認された。

#### 5 協議における主な意見

##### (1) 「単学級の小規模校の1学級における必要な最低人数」について

###### ① 小学校について

- ・小学校だと20人ぐらいでいいと思う。幼稚園から小学校に行くにあたっては、一人ひとり個性があるし、目を行き届かせるという点では20人ぐらいが適切。ただし、人間関係という点では少なすぎると固定された人間関係から抜け出すことができない。色々な人との関わりを作っていくためには最低20人ぐらいは必要だと思う。
- ・小学校25人以下ぐらい、中学校で30人ぐらいが適切ではないかと思う。教員側から見ても25人だと把握できる数だと思う。子ども達の友達関係を見ても、年齢が小さいほど小さな集団で、大きくなってくると、大きな集団になっていくという傾向があるので、小学校と中学校でそれぐらい差をつけてもよいのではないか。
- ・人間関係が順風満帆にいけばよいが、こじれた場合にお子さんだけでなく、保護者の方も、人数が多い方が逃げ道があるので良いと思う。PTAであったり子供会であったり、役の回り方についても、ある程度人数があった方が役の回りが遅くなる。
- ・小学校では20人ぐらいではないか。個に応じて学習を指導していけると考えると、多いよりも人数が少ない方が学習面では見てあげられる。しかし、生徒指導面、人間関係で見ていくと、ある程度人数が欲しいと思う。それから考えると20人ぐらいが適当。
- ・これを考える時に、1つはきめ細やかな指導ができるということ、それともう1つは、社会性を身に付けていくということ、この2本柱から考えた時に20人ぐらいが、スタートラインだと思う。発達段階に応じて、徐々に人数を増やしていくのが適当だと思う。小学校で35人学級化が進んでいる。36人になると18人ずつの2学級。これが静岡式の下限が撤廃された現在の最低人数。そう考えると、20人ぐらいがベースとなっていく考えでよいと思う。

###### ② 中学校について

- ・中学校は20人から30人の中の30人近くと考える。中学校を卒業してほとんどが高校に行く。高校では30人以上が当たり前となっているので、あまりに中学校での人数が少ないと高校でのギャップが大きすぎてしまって、子供たちも慣れていかない。最低人数で言うと中学校では30人ぐらいがいいのではないかと思う。
- ・中学校になると、男女差が出てくると思う。20人の学級で男女が10人ずつになってしまうと思う。30人以上はあった方がいい。
- ・中学校で30名ぐらいがベストではないかと思う。中学生のころになると、ものすご

い小さな事でも気にする。大人の自分が言われたら何も気にしないようなことも気にしてしまう年頃。それを考慮すると少人数だと余計逃げ場が無くなってしまわないか。

- ・中学校になると将来のことも考えて、個として自分がどのようなことをしていくのか、いろいろな子と切磋琢磨しながら学校生活を送るという点で 30 人以上は必要だと思う。

## (2) 「望ましい教育環境としての学級数」について

- ・単学級では、非常に良好な関係が築ければ、それがずっと続くが、ひとたび状況が崩れてしまうと、そのお子さんにとっては、逃げ場がなくなってしまう。それを考えると小学校、中学校問わず複数学級あった方が望ましい。特に中学校においては、学級で切磋琢磨し合いながら、お互いを高め合うという活動が増えてくる。また、今の子ども達はひとたび関係が崩れたときに、その関係を修復する能力が弱い部分があるので、その点を考えても複数学級あった方がよいと考える。
- ・できれば2学級よりも3学級以上、小学校も中学校も欲しいと思う。2クラスだと6年間で毎年入れ替わったとしても、結局どちらかしかないということもあり、3クラスぐらいあれば、子どもたちの人間関係を配慮して、何とか振り分けることができるのではないかと。毎年クラス替えがあるのもとても良いことだと思う。4月で初めましてから始まって人間関係を作るということを小さいうちから重ねていけば、大人になってもその経験が活きる。コミュニケーション能力がある人が育てば、将来どのような仕事についても上手くやっていくと思う。勉強はやろうと感じた時に、いつからでも始められると思うが、コミュニケーション能力は生まれ持ったとか、育ってきた環境によって大きく影響されると思う。
- ・2学級以上が良いのではないかと。先程コミュニケーション能力の話が出たが、小さい頃から、いろいろな子と話ができる環境をつくってあげることが良いのではないかと。いじめとかそういった問題が出た時に、子どもだけではなくて両親も非常に困ると思う。つらい思いをして最終的にどう判断されるかという引越すということも考えている場合もある。ある程度の人数、ある程度のクラス数があった方がよいのではないかと。
- ・小学校も中学校も2学級以上の複数ある方がいい。クラスが変わることで、人間関係に困難を抱えた場合でも、あの子がいるから頑張ろうと気持ちを変えられることができる。
- ・教師という視点で考えた場合も2クラスあると経験が少ない教員が勤務した場合に、経験の多い教員からアドバイスをもらえる。2クラスで相談しながら足並みを揃えながら運営していくことができる。単学級だと、経験の少ない教員にとっては負担が大きい。子どもの側にしてみると幅を持たせた教育ができることを考えると2クラスあった方が望ましい。
- ・単学級は非常に良いところもある。子どもたちの一人ひとりがわかっている、非常にやさしい。この子はこういう子だと分かっている、お互いの良さが分かりあえる。そしてそれが最終学年までいけるというメリットがある。単学級で競い合うという点では学年団で、例えば3年生と4年生でという風に工夫して、そのような環境を作っている。縦のつながりが強いということで、子ども達にとっては、来年になればこういうことをやるという意識をつけさせることもできる。